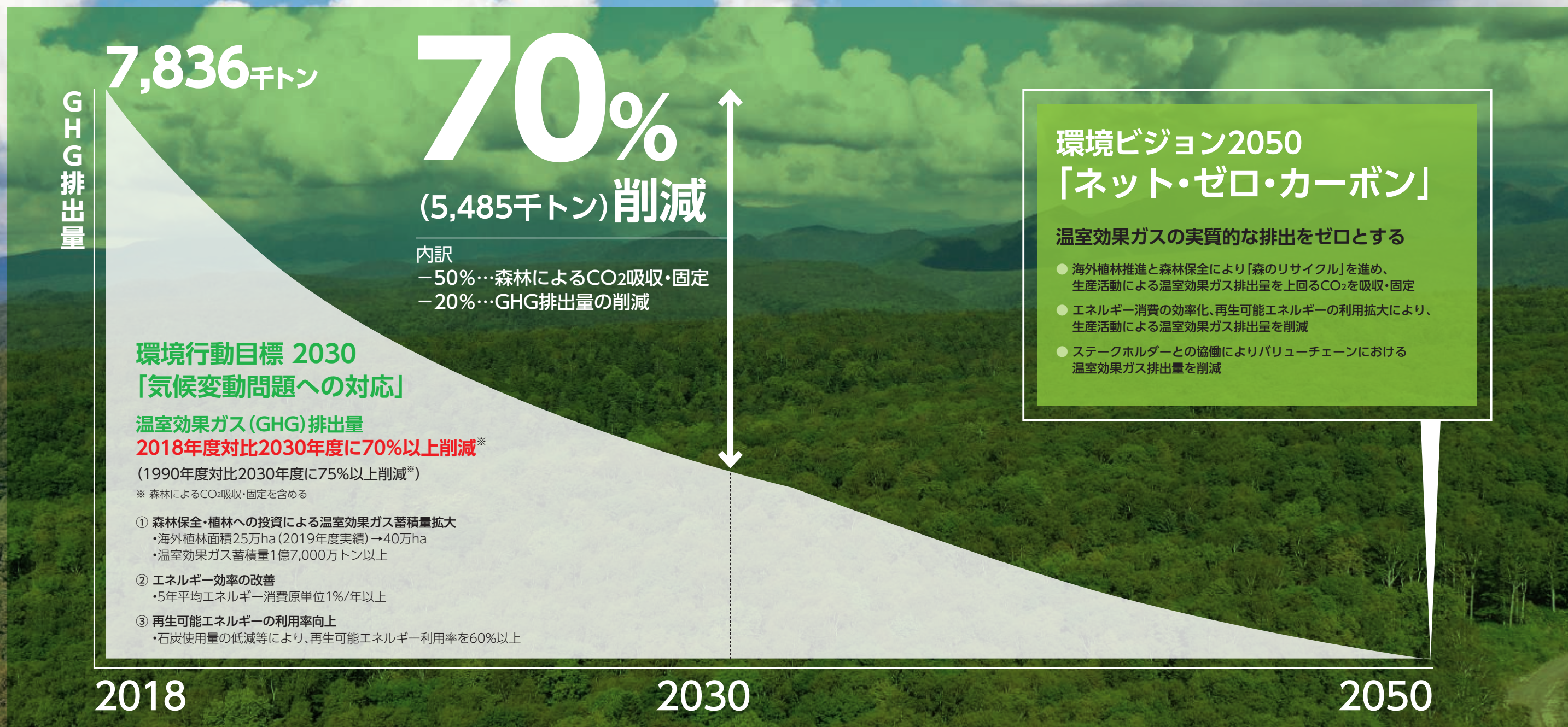


2050 ネット・ゼロ・カーボンを目指して

主要原料の木材をはじめ、再生可能な資源を活用する王子グループにとって、自然環境の保全は事業の継続のために必要不可欠です。また、気候変動問題を経営上の重要課題と認識しており、この問題に積極的に取り組むことにより、事業活動の持続可能性を高めることができると考えています。

この方向性を明確に示すため、当社グループが目指す姿「ネット・ゼロ・カーボン」を中核とする、2050年に向けた「環境ビジョン2050」と、そのマイルストーンとして「環境行動目標2030」を、2020年9月に制定しました。



環境行動目標2030

詳細はこちら
 → <https://ojiholdings.disclosure.site/ja/themes/150/>

環境ビジョン2050

詳細はこちら
 → <https://ojiholdings.disclosure.site/ja/themes/191/>

王子グループが目指す姿の実現のための「環境ビジョン2050」では、2050年度に「ネット・ゼロ・カーボンを目指す」ことを掲げました。そのマイルストーンとして、「環境行動目標2030」にてGHG排出量^{※1}を70%削減(2018年度7,836千t対比)する目標を2020年9月に制定しました。

2030年度の削減目標は、GHG排出量の削減、当社グループが所有する森林によるCO₂の純吸収量^{※2}から構成されており、そのロードマップを作成するとともに、目標達成の確度をあげるため、プロジェクトチームを編成して取り組んでいます。

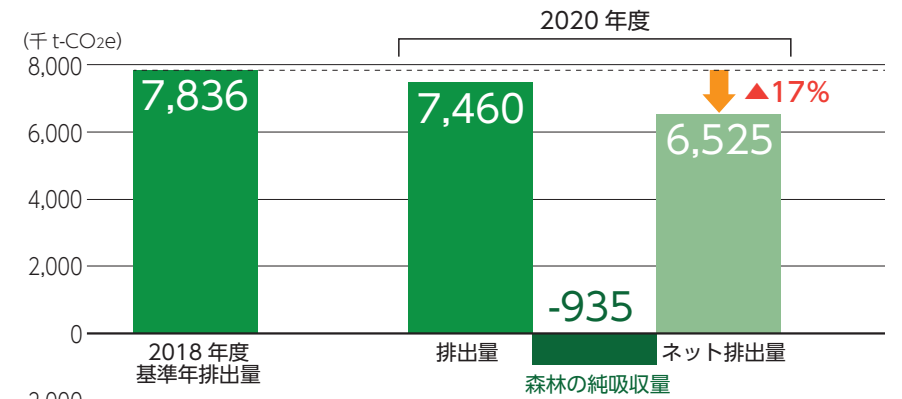
※1 SCOPE 1 (燃料の燃焼にともなう直接排出) + SCOPE 2 (購入電気・熱による間接排出)
※2 ゲイン・ロス法(当該年度の森林CO₂吸収量－当該年度の伐採によるCO₂排出量)により算出

	区分	項目	GHG削減量 (千t-CO ₂ e)	GHG削減効果	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
GHG排出量削減	エネルギー効率の改善	省エネルギーの継続	204	2.6%	5年平均1.0%以上の消費エネルギー削減の継続									
	再生可能エネルギー利用率の向上	石炭使用量減	508	6.5%	技術調査・開発・投資判断・設置									
		化石燃料発電による売電停止	279	3.6%	検討・売電停止									
		自家用太陽光発電パネル設置等	60	0.7%	設置計画・投資判断・設置									
	事業構造転換	GHG排出量が少ない事業構造へ	516	6.6%	GHG排出量が少ない事業への転換									
小計			1,567	20%										
森林による純吸収量	海外生産林				海外生産林 26万ha → 海外生産林 40万ha									
	森林保全・植林への投資	植林地の拡大	3,918	50%	探索・土地調査 → 事業性評価 → 取得検討・判断									
合計			5,485	70%										

2030年度の70%削減(森林による純吸収量を含む)目標に対して2020年度は17%削減となりました。削減目標に対する達成率は、24%です。

今後もGHG排出量削減と森林によるCO₂純吸収量の拡大を積極的に進めてまいります。

2020年度ネットGHG排出量の状況



目標達成に向けて

GHG排出量削減

削減に向けた重点項目は、石炭使用量の削減です。石炭を使用するボイラは国内に16基あり、石炭使用率が低いボイラや予備基を除いた12基を対象に燃料転換の検討を行っています。

2050年に石炭使用量をゼロとするため、中間年度の2030年度に向けて、木質等への燃料転換、将来的に水素、アンモニア混焼を見据えた石炭火力発電設備の改造、自家用太陽光発電の設置を進める計画です。

その他、徹底した省エネルギーの継続、GHG排出量が少ない事業構造への転換により、GHG排出量20%(2018年度比)削減する目標達成に向けて取り組んでいきます。

更にバイオマス発電や水力発電などの再生可能エネルギー電力の供給による第三者のGHG排出量削減への貢献にも継続して取り組んでまいります。



2022年9月稼働予定のバイオマス発電設備

森林によるCO₂純吸収量の拡大

当社グループは、国内19万ha、海外26万haの生産林、13万haの環境保全林の合計58万haの森林を保有し、持続可能な森林経営を実践しています。(➡P39～P40、P87～P89)

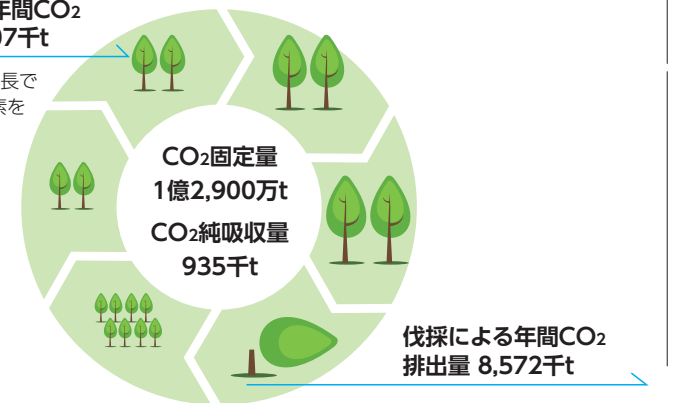
持続可能な森林経営の実践の結果、2020年度末のCO₂純吸収量は、生産林と環境保全林をあわせて935千トン、CO₂固定量^{※3}は1億2,900万トンに及びます。

環境行動目標2030(2020年9月制定)において、2030年度までにさらに15万haの森林面積を増やすことを目標としています。

その結果、純吸収量は、2018年度GHG排出量の約50%に相当すると見込んでおります。また、2021年3月時点で、15万haの森林の拡大に伴う費用は、約1,000億円と試算しています。

成長に伴う年間CO₂吸収量 9,507千t

1年間の木の成長で固定される炭素をCO₂に換算。



※3 王子の森58万haが蓄積しているCO₂量

*詳細 ESGデータ集/環境/表20 ➡ <https://ojiholdings.disclosure.site/ja/themes/116/>
また、森林によるCO₂吸収・固定量、GHG排出量は、連結会社を対象としています。